

農林水産大臣賞

株式会社くしまアオイファーム(宮崎県串間市)

【主な品目】

青果物(さつまいも)

【主な輸出先国・地域】

香港・台湾・シンガポール

【輸出取組の概要】

- 2012年からシンガポール向けの輸出を開始し、2013年には香港、台湾に拡大。海外の需要が高い小ぶりのサイズのさつまいもを栽培する「小畦密植(こうねみっしょく)栽培」法を開発・実践。
- 船便輸送により発生するカビ、腐敗によるロスが課題であったが、先進的な結露防止・鮮度保持袋の活用により、課題を解決し、現地へ良質なさつまいもの輸出を実現。
- 九州で唯一のキュアリング機能(収穫時の傷を自然治癒し腐敗を防止)を有するさつまいも貯蔵施設の強みを活かし、輸出拡大のための品質の安定化を実現。

【輸出実績】(平成24年から輸出開始)

	輸出額(万円)	輸出量(t)	出荷時期
平成28年度	10,369	453	通年
平成27年度	6,622	303	
平成26年度	1,387	28	

輸出に取り組んだきっかけ

- ・ 個人農家として国内への取引を続けていた中で、新聞で国産さつまいもの輸出関係の記事を読み、掲載されていた商社に問い合わせた事がきっかけで輸出を2012年に開始しました。
- ・ 国内では廃棄されてしまうことの多い小ぶりのサイズの芋に着眼し、「おやついも」としてブランド化しました。更なる取引拡大を見込み法人化し、「株式会社くしまアオイファーム」として消費需要のあるアジア圏(香港・台湾・シンガポール)に向けて輸出を開始しました。
- ・ 香港やシンガポールへの催事出展など、自社スタッフや契約農家を巻き込み、販売促進活動も積極的に取り組んでいます。

取り組む際に生じた課題

- ・ 宮崎県の定める慣行栽培基準に沿って生産した小ぶりのさつまいもを、商社経由で輸出しましたが、生産コストが高かったことがネックとなっていました。
- ・ 輸送中に袋内が結露する事による発生するカビや、腐敗する芋が発生するという課題が浮上し、対策を迫られました。
- ・ カビ・腐敗によるロス率を勘案すると、末端販売価格を高くして対応する事になり、売り先が現地の日系スーパーや百貨店といった高級店でしか扱うことができない状況でした。



小畝密植栽培



海外のニーズにマッチした小ぶりの芋



結露防止フィルム「P-プラス」

生じた課題への対応

- 畝を小さく、間隔を狭くして単位面積当たり慣行栽培の2倍の種芋を植える「小畝密植(こうねみつしょく)栽培」法により、生産量は慣行栽培より1割低下しますが、販売に適したサイズの歩留まりが3割上昇するため、出荷量が増え、アジア圏で人気の高い小ぶりさつまいもの取扱量の増加に伴い、国内と同等の利益を確保する見通しがつきました。
- 収穫時に傷ついた芋を自然治癒させるキュアリング機能を備えた大型貯蔵施設を整備することにより、品質の保持、食味の向上を図り、周年安定出荷が可能となりました。
- さつまいもそのものの品質向上も試みましたが、包材の影響はかなり大きいと判断し、適合する商品を模索していた時、結露防止フィルム「P-プラス」を導入しました。多少、高めの包材ではありますが、新鮮で高品質のさつまいもの輸出が可能となり、他産地との差別化が図られました。

対応の結果

- 炊飯器や電子レンジで調理できる「おやついも」は手頃な価格であることも支持され、当社の主力商品となりました。
- この高品質な小ぶりさつまいもは、現在、香港、台湾、シンガポールに輸出し、輸出量453t、輸出額10,369万円となり、輸出拡大に繋がりました。
- 輸出品だけではなく、国内出荷分も袋入りの商品は全て、P-プラスに切り替えました。その結果、現地バイヤーの反応はもちろん、日本国内でも当社が栽培したさつまいもは高評価を得ています。

今後の課題・展望

- 県内の若手デザイナーと提携し、さつまいもを人に見立ててキャラ化する「擬人化キャラ」を産みだし、幅広い客層に受け入れてもらえるような斬新なブランディングを展開中。
- 毎年新品種を栽培しながら年間を通じて安定的な出荷が可能となりました。「いい商品を届けたい」というサツマイモの栽培に対する熱意と、柔軟な商品開発力を武器に、海外市場開拓への挑戦を続けていきます。
- 串間市を「世界一のさつまいもブランド産地」にすることも目標としています。



シンガポールでの販促活動



香港催事会場での販売



擬人化キャラ

【活用した支援・施策】ジェトロ輸出支援相談サービス、6次産業化推進整備事業

【ウェブサイト】<http://kushima-aoifarm.com>

【連絡先】担当者名:総務部長 山下 0987-72-1197